



# 草加市立稲荷小学校の取組

## 1 本校の概要

本校は草加市の北東部に位置し、開校 43 周年を迎えた。児童数 454 名、学級数 15 学級の中規模校である。外国籍の児童で日本語指導の支援を必要とする児童が各学級数名ずつ在籍している。



学校教育目標を『自ら学び 心豊かに たくましく』とし、「花さく 夢さく 笑顔さく 明日への希望 いなりっ子」を合言葉に教職員が一丸となり、「児童一人ひとりを大切にする教育の推進」を学校経営方針として、主体的に学ぶ力、豊かな人間性、たくましい心身の育成を目指している。また、平成 28 年度から 4 年間、草加市教育委員会の委嘱を受け、「幼保小中を一貫した教育」に関わる研究を推進している。「学力の向上と豊かな心の育成を目指して～幼保小中を一貫した教育の取組から～」を研究テーマに掲げ、いなり幼稚園・ひかり幼稚園舎・松江中学校と連携し、「自ら学び、心豊かに、たくましく生きる子」の育成を目指し、研究を進めてきた。

## 2 平成 30・31 年度の結果

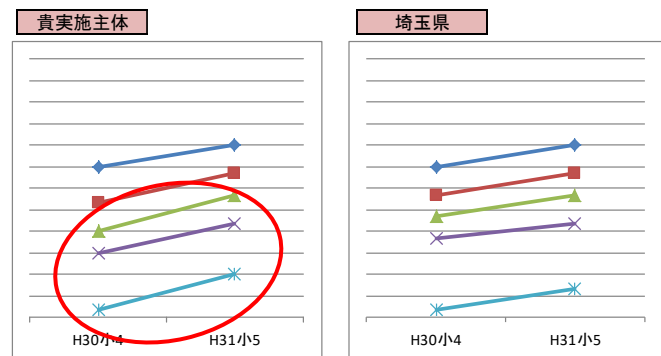
### 小学校 4 年生→小学校 5 年生の取組

#### (1) 学力の伸びから見られる特徴【算数】

今までの学力の変化

	小学校 4 年生	小学校 5 年生	小学校 6 年生	中学校 1 年生	中学校 2 年生	中学校 3 年生
高	レベル12					
	レベル11					
	レベル10					
↑	レベル9					
	レベル8					
↓	レベル7					
	レベル6					
	レベル5					
	レベル4					
低	レベル3					
	レベル2					
	レベル1					

学力の伸びの状況



- 小4から小5にかけて、学力レベルが6上昇し、県平均の変化を大きく上回っている。
- 中位層・下位層の学力が大きく伸びている。

#### (2) 伸びを引き出した効果的な取組

##### ア ICTを活用した授業の推進

各授業において、積極的にICTを活用した授業を実践した。特に国語・算数では、指導者用デジタル教科書を活用した。分かりやすい授業の実現のために、教科書の図表や教具の使い方等を大きく示すことで教師の指示や各児童の考えを共有化したり、理由や仕組みを視覚的に示すことで理解を深めたりした。これにより、児童の授業への興味・関心を引き出すとともに、基礎的・基本的な知識・技能の確実な定着を図ることができた。



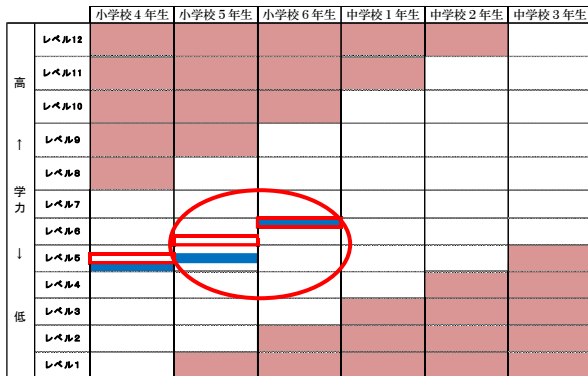
##### イ 自己肯定感の向上を目指した指導の推進

学習内容がわかった、できたという経験を積ませるために、単元テストを大切にした。テスト前には類似問題のプレテストを数回実施し、自信をもってテストに臨ませた。また、様々な問題に慣れ、解けた喜びを味わわせるために、国語（文法問題）と算数（文章問題）について、コバトン問題集や復習シート等から問題を選び両面に印刷したプリントを、週2回家庭学習として取り組ませた。

## 小学校5年生→小学校6年生の取組

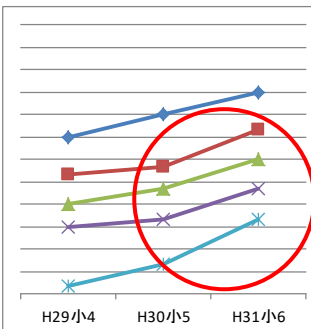
### (1) 学力の伸びから見られる特徴【算数】

#### 今までの学力の変化

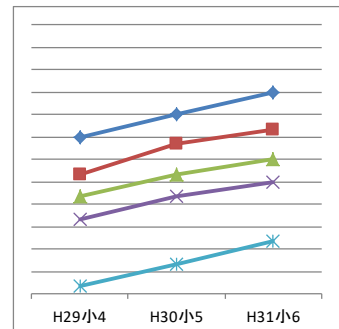


#### 学力の伸びの状況

##### 貴実施主体



##### 埼玉県



- 学力レベルが県レベルまで伸びている。
- 上位層・中位層・下位層とも学力が大きく伸びている。

### (2) 伸びを引き出した効果的な取組

#### ア 見通しを意識した授業展開

授業の流れの中で、特に「一人で自力解決できるよう具体的な見通しをもたせる」ことに重点をおき指導を行った。学習内容によっては、見通しの場面で話し合う場面を設定したり、自力解決を行うために必要な具体的な方法を発表させたりした。多くの児童が自力解決できるようになり、自信をもって学習に取り組むことができるようになった。

#### イ 学び合う学習形態の工夫

適用問題に取り組む時間を中心に、児童同士で教え合う活動を取り入れた。「答えを教えるのではなく、解き方を教えること」を意識させた。学習内容の理解が不十分で学習に取り組めない児童は、友達からヒントをもらうことで少しずつ適用問題を解けるようになり、教えた児童も自分の言葉で説明するために学習内容を振り返り、どう伝えれば理解してもらえるかを考えながら教えたため、相互の学習の理解が深まった。また、児童間の良好な人間関係にもつながった。

## 学校全体での取組

#### ア ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業、学習環境の推進

- ① どの児童にとっても楽しく「分かる」「できる」授業の実現のため、授業のユニバーサルデザイン化として「焦点化」「視覚化」「共有化」の考えを取り入れた授業展開を全職員が意識して取り組んだ。特に「視覚化」において、ICTを活用したり、図や写真を用いたりして、学習内容や学習教材を言葉だけでなく、視覚的に理解できるようにした。
- ② 学習環境のユニバーサルデザイン化として、授業に集中できる環境を整備した。具体的には、黒板の周りの学校教育目標以外の掲示物を外したり、前面の掲示板にカーテンを取り付けた。また、時計を側面や背面に移動した。この取組によって、児童は、視覚による刺激が低減され、学習に集中できるようになった。



#### イ 学習規律の統一

落ち着いて学習に取り組むことができるように、話を最後までしっかりと「聞く」指導の徹底を全校で取り組んだ。また、小中一貫の取組として、授業の開始、終了時のあいさつを小中で統一し、「語先後礼」を意識した挨拶を行うこととした。「聞く」態度が向上したことで、授業に落ち着きが見られ、学習活動が円滑に進み、児童の学習理解が深まった。



# 滑川町立宮前小学校の取組

## 1 本校の概要

本校は、滑川町の中央に位置し、開校146周年を迎える。全校児童数は473人、学級数は18学級の中規模校である。学校教育目標『夢をもち未来を拓く子～よい子・強い子・勉強する子～』の下、家庭・地域・学校が共通の目標をもって教育活動に取り組んでいる。

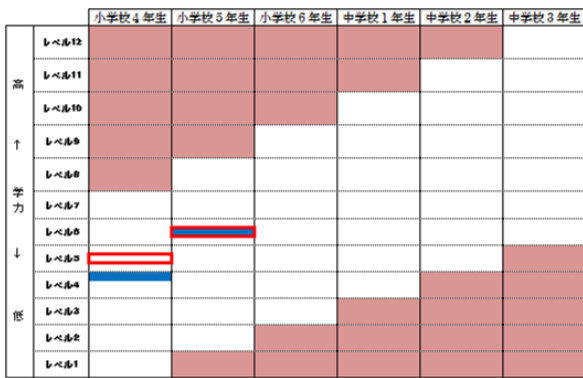
昨年度は、研究テーマを『基礎・基本を身につけ、主体的に学ぶ子供の育成～学力・学習状況調査の分析・活用を通じた授業改善サイクルの確立～』と設定し、国語科・算数科の授業を中心に、各種学力調査の結果分析を通して学年ごとに課題を明確にし、授業改善を図った。「ていねいに・続けて・最後まで」を合言葉に、学習習慣を身に付け、全児童の学力が伸びるよう、全教職員が愛情をもってよりよい授業づくりに努めている。

## 2 平成30・31年度の結果

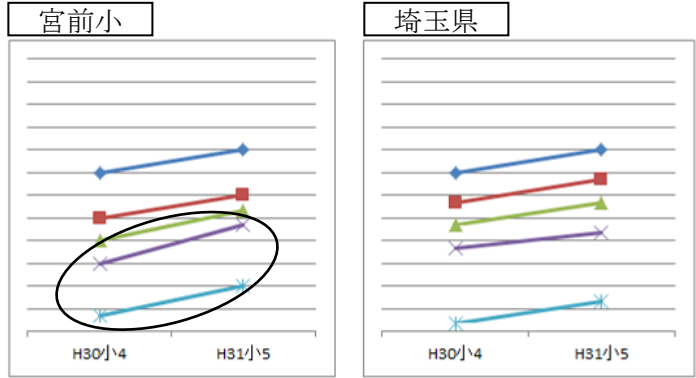
### 小学校4年生→小学校5年生の取組

#### (1) 学力の伸びから見られる特徴【算数】

##### 今までの学力の変化



##### 学力の伸びの状況



- 算数の学力レベルが県平均を下回っていたが、5段階伸ばし、県平均と同程度になった。
- 特に、下位層の「学力の伸び」が大きい。

#### (2) 伸びを引き出した効果的な取組

##### ア 個に応じた指導の充実と基礎・基本の徹底

個に応じた指導の充実のため、算数科の授業においてTTを取り入れている。教師の役割を明確化し、T2の個別支援により一人一人の理解を促し自分の考えをもって課題解決に臨めるように支援している。また、単元や児童の実態に応じて担任教師がT2を担当し、解決の手立てを示したり児童の躓きを見取って支援したりすることで、児童の興味・関心や意欲を引き出し、効果的に学習を進めることができた。適用問題やスキル等の取り組みでは、間違えた問題に付箋を貼るなどの手立てにより、全ての問題に丸がつくまで繰り返させ、学習内容を確実に定着させた。児童は、分かることで学習への意欲が高まった。

##### イ ICT機器を活用した授業づくり

実物投影機やタブレットの映像をプロジェクターで投影し、問題や図、具体物の操作、児童の思考などの情報を提示することで、視覚的に学習課題を捉えたり、振り返りを行ったりすることができた。また、板書に係る時間の短縮により、課題解決の時間が確保され、解法についてじっくりと思考したり、考えを共有したりする活動も多く取り入れることができた。自分の考えを伝え合い、教え合う中で、下位層の児童も最後まで諦めずに取り組む姿が見られ、自己有用感の高まりも感じられた。

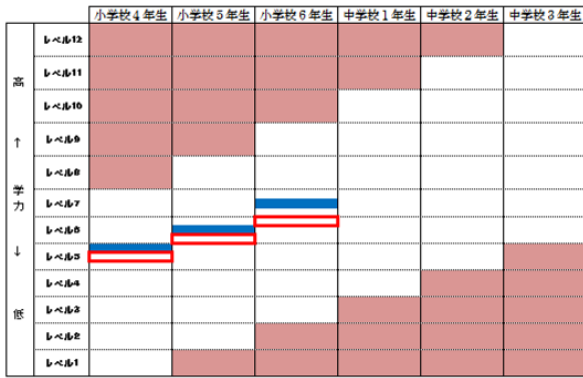


プロジェクターを活用した授業

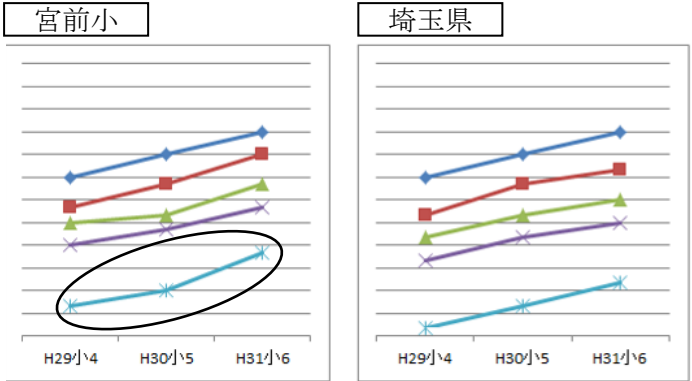
## 小学校5年生→小学校6年生の取組

### (1) 学力の伸びから見られる特徴【算数】

#### 今までの学力の変化



#### 学力の伸びの状況



- 学力のレベルは、小4・5では県平均より1段階高いが、今年度は2段階高くなった。
- 最下位層に大幅な伸びが見られた。

### (2) 伸びを引き出した効果的な取組

#### ア 問題解決や探究的な学習を取り入れた学び合う授業の定着

多様な考えを引き出したり、思考を深めたりする課題の提示や発問の工夫を行った。児童が見通しを基に自力解決し、その答えや考えを自分なりに表現する活動や友達に分かりやすく説明する活動を積極的に取り入れた。上位層の児童は、多様な解法や自分の考えを表現し、わかりやすく説明することを通して、自らの思考力・判断力・表現力等を働かせ、理解を確かなものにしていった。下位層の児童も、一人一人が分からないことを質問したり、意見交換したりと、自分なりに表現する活動を繰り返し経験し、協働的に学習する中で、理解を深めて、力を大幅に伸ばした。

#### イ 「学びの振り返り」の習慣化

授業の終末では、児童の言葉でまとめや感想を書かせた。振り返りの時間をもつことにより、児童の思考を整理させ、深い学びへとつなげられるようにしている。「今日の友達の手紙で、よかったこと」「もっと知りたいと思ったこと」など、書く内容を焦点化し、数学的な見方・考え方を養う工夫をしている。

**★学しゅうかんぞうで書くこと★**

「友だちの手紙がよかったこと。」  
～みんなが「ぼく」は、お礼の手紙をよめてよかった。  
～みんなの手紙で、書いてほしいお礼の手紙。  
「書きたかったこと。」  
お礼の手紙を書いてみたいと思えた。  
みんなの手紙がうれしくてたくさん書きた。  
「よかったこと、わからなかったこと。」  
お礼の手紙がうれしくて、お礼の手紙をよめてよかった。  
お礼の手紙がうれしくて、お礼の手紙をよめてよかった。  
「書きたかったこと。」  
お礼の手紙があるから、お礼の手紙がうれしくて、お礼の手紙をよめてよかった。  
お礼の手紙があるから、お礼の手紙がうれしくて、お礼の手紙をよめてよかった。  
「つづいてみたいこと。」  
お礼の手紙があるから、お礼の手紙がうれしくて、お礼の手紙をよめてよかった。  
お礼の手紙があるから、お礼の手紙がうれしくて、お礼の手紙をよめてよかった。  
「書くことにした。」  
お礼の手紙があるから、お礼の手紙がうれしくて、お礼の手紙をよめてよかった。  
お礼の手紙があるから、お礼の手紙がうれしくて、お礼の手紙をよめてよかった。  
「ほかにできること、書きたいこと。」  
お礼の手紙があるから、お礼の手紙がうれしくて、お礼の手紙をよめてよかった。  
お礼の手紙があるから、お礼の手紙がうれしくて、お礼の手紙をよめてよかった。  
「今日の学びのキーワード。」  
お礼の手紙があるから、お礼の手紙がうれしくて、お礼の手紙をよめてよかった。  
お礼の手紙があるから、お礼の手紙がうれしくて、お礼の手紙をよめてよかった。  
「もっと学しゅうしたいこと。」  
お礼の手紙があるから、お礼の手紙がうれしくて、お礼の手紙をよめてよかった。  
お礼の手紙があるから、お礼の手紙がうれしくて、お礼の手紙をよめてよかった。

**振り返りの観点(教室掲示)**

### 学校全体での取組

- ア 学習意欲を高め授業規律を確立するため、全教育活動を通じて、励ましや称賛など自己有用感を高めるための言葉がけと、「傾聴」の指導に力を注いでいる。
- イ 教室前面の掲示物の精選や掲示板へのカーテン設置等、ユニバーサルデザインを取り入れた学習環境の整備に取り組んだ。また、学習過程を示すマグネットシート（「課題」「見通し」「まとめ」等）を学校全体で統一している。
- ウ 毎日の宿題の他に、「ターナちゃんノート」（自主学习ノート）への取組を通して、児童の家庭学習の習慣化を図った。学年ごとの取組時間の目安を設定し、内容について助言したり、よい取組を紹介したりして意欲を高めている。
- エ 全教職員が全国学力・学習状況調査の問題を実際に解くことや、県学力・学習状況調査の分析に取り組み、今求められている学力と児童の課題の把握に努めた。今年度は、分析結果から、「正確に読み取り、判断し、自分の考えを書くことができる児童の育成」に取り組んでいる。
- オ 授業を録画して自己評価をしたり、時間を活用し互いに授業を見て学び合ったりと、指導力向上に努めている。また、OJTを通じて、ベテランや中堅層教員の専門性を生かした指導技術の伝達を積み重ねながら、見届けを大切にした若手教職員の育成に取り組んでいる。



教師の話に「傾聴」する児童



UDの視点に基づく環境整備



# 熊谷市立大幡小学校の取組

## 1 本校の概要

本校は、国宝「歓喜院聖天堂」をはじめ、関東一の祇園と称される「うちわ祭り」や2019ラグビーワールドカップ開催都市として知られる熊谷市の中央部に位置し、明治6年の開校から今年で147年目を迎えた歴史と伝統のある学校である。全校児童数は539名、学級数21学級の中規模校である。

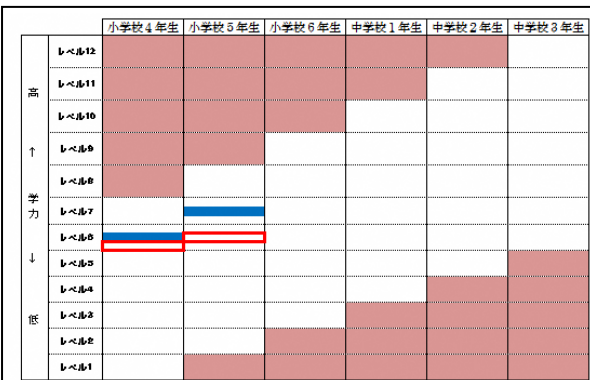
学校教育目標『大きな心 はたらく頭 たくましい体』のもと、大幡小の「財」、宝である子供たちを育て、その力を最大限に発揮させるために教職員一丸となって取り組んでいる。昨年度から、研究課題を『確かな学力を身につけ、主体的に表現する児童の育成 ～学校図書館の利活用を通して育む資質・能力～』と設定し、「くまがやラグビー・オリパラプロジェクト」（熊谷市教育振興基本計画）のもと、児童一人一人の学力向上を目指すとともに、教科の垣根を超えた総合的な学力を身に付け、学校で学んだことを実生活の中で活用できる力の育成を図りながら「主体的・対話的で深い学び」のある授業づくりを進めている。

## 2 平成30・31年度の結果

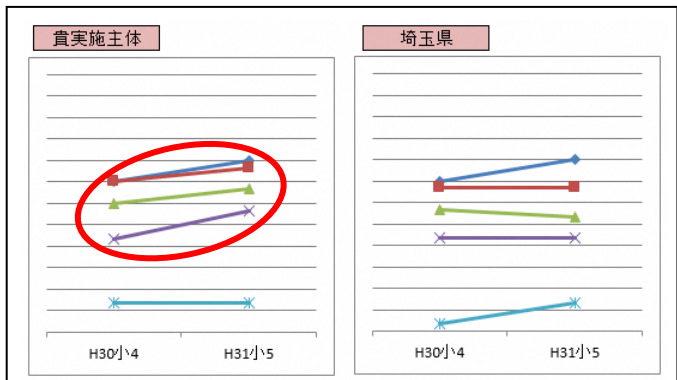
### 小学校4年生→小学校5年生の取組

#### (1) 学力の伸びから見られる特徴【国語】

##### 今までの学力の変化



##### 学力の伸びの状況



- 国語の学力レベルが3ポイント上昇し、県平均を上回っている。
- 特に中間層～上位層の学力が伸びている。

#### (2) 伸びを引き出した効果的な取組

##### ア 「主体的・対話的で深い学び」のある授業改善（対話的な学び）

###### ① 学習内容の明確化

本時で教える学習内容を明確にするとともにわかりやすい板書・ふり返りのできるノート指導を行うことで、思考のあとの見える化を行った。

###### ② 伝え合い活動の充実

「フレンドタイム」（グループ）・「トーキングタイム」（全体）を効果的に活用するとともに、①根拠をもって考えを書く活動②根拠を明確にして考えを伝え合う活動③考えをさらに深める活動に重点をおき、思考力・判断力・表現力を高めた。



6年国語「パネルディスカッションをしよう」フレンドタイムの様子

##### イ 日常生活における言語活動の充実（対話的な学び）

###### ① 階段慣用句の設置【日常生活におけるラウンドシステム化】

様々な言葉に触れる機会を設け、日常生活の中で親しませながら活用することで、語彙力の向上を図るとともに、自分の考えや思いを正確に伝えることができる素地作りを行った。



階段慣用句の設置

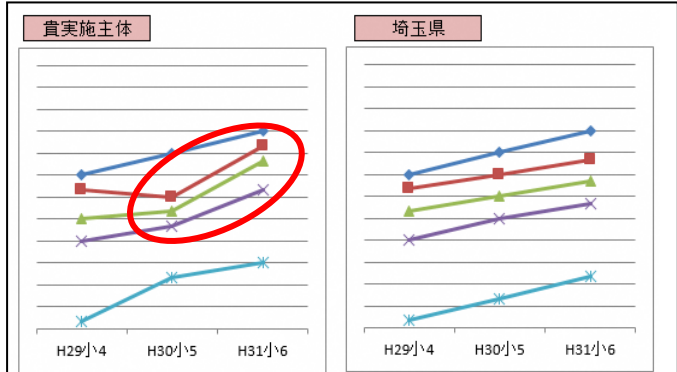
## 小学校5年生→小学校6年生の取組

### (1) 学力の伸びから見られる特徴【国語】

#### 今までの学力の変化

	小学校4年生	小学校5年生	小学校6年生	中学校1年生	中学校2年生	中学校3年生
高 ↑ 学力 ↓ 低	レベル12					
	レベル11					
	レベル10					
	レベル9					
	レベル8					
	レベル7					
	レベル6					
	レベル5					
	レベル4					
	レベル3					
	レベル2					
	レベル1					

#### 学力の伸びの状況



- 国語の学力レベルが昨年度に比べ7ポイント上昇し、県平均を大きく上回っている。
- 特に、中間層の学力の伸びが顕著である。

### (2) 伸びを引き出した効果的な取組

#### ア 学校図書館で総合的な力を育てる（主体的な学び）

##### ① 3つの機能を有した学校図書館の整備 【教科の垣根を越えた学習の場づくり】

◎学校図書館の3つの機能 <読書センター> <学習センター> <情報センター>

第一段階：学習活動における学校図書館の利活用を図ることで、教科横断的かつ体系的に情報活用能力を育成  
 第二段階：情報活用能力を探究的な学習の中で活用し、汎用的な資質・能力の育成と活用方法の習得を行う  
 第三段階：探究的な学習を教科横断的かつ体系的に実践し、実生活の中で生かせる総合的な活用力の定着を図る

#### イ 自己肯定感の醸成（学びに向かう力、人間性等）

##### ① 『心ウキウキ ボイスシャワー大作戦』の実施

自治的風土（認め合い・高め合い）を形成することで、授業の中での承認欲求を満たし、先生はしっかり見てくれているという信頼関係を構築することで、児童の考えが表出しやすい環境を整え、「主体的・対話的で深い学び」のある授業づくりの基礎とした。

##### ② 『トリプルチェンジ・ローテーション 道徳ローテーション』の実施

学年の教員同士の協力体制を強化し、学年全体で個の良さや課題等を把握するため、毎週木曜日にローテーションで学年内の担任が他クラスの指導者となり、朝の学習（はたろータイム）・朝の会・給食指導をしている。また、より深い教材研究及び負担軽減の観点から、道徳の授業も学年内で各担任が受け持つ題材を決めてローテーションし、評価の共有を図ることができた。

## 学校全体での取組

#### ア 読書活動の推進・詩や良文の暗唱・百人一首の暗唱（主体的な学び）

本と触れ合う機会を増やし、良文との出会いを創出するため、読書カード・暗唱に取り組んでいる。読書（30冊）、詩や良文（5首暗唱）、百人一首（10首暗唱）するたびに、校長が直接賞状を授与し、表彰の様子を写真で掲示することで意欲の向上を図り、主体的に取り組む児童の育成に努めた。

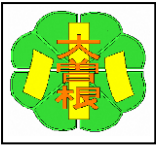


#### イ 教科横断的な学習過程の編成（深い学び）

熊谷市全体で取り組んでいる「くまがやラグビー・オリパラプロジェクト」を活用し、各教科の特性や単元構成を見直し、教科横断的な教育課程を編成し、学習内容を明確にした授業改善を行った。

#### ウ はたろー教室（補充学習）の取組（深い学び）

埼玉県学力・学習状況調査の結果より、正答率25%以下の児童を中心に補充学習を実施し、担任、教務、全学年からの協力を得て、児童の実態に即したきめ細かい指導を徹底して行った。



# 八潮市立大曽根小学校の取組

## 1 本校の概要

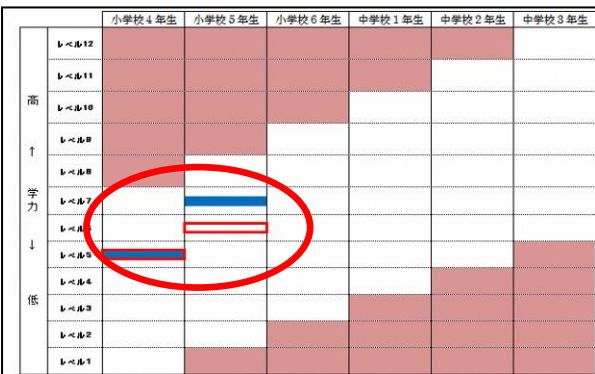
本校は、八潮市の南西部に位置し、開校 51 年目を迎える。児童数は 576 人・学級数は 20 学級である。また、本市では、市内全小中学校で小中一貫教育を推進し、小中学校の「学び」をつなぎ、義務教育 9 年間にわたる連続性・系統性を大切に学習指導等の充実を図り、「学力・体力の向上」と「豊かな心の育成」を目指している。こうした中、本校では、算数科を中心に学校課題研修に取り組んでおり、主体的に学び、分かる喜びを実感できる授業の工夫・改善を行っている。

## 2 平成 30・31 年度の埼玉県学力・学習状況調査の結果と取組

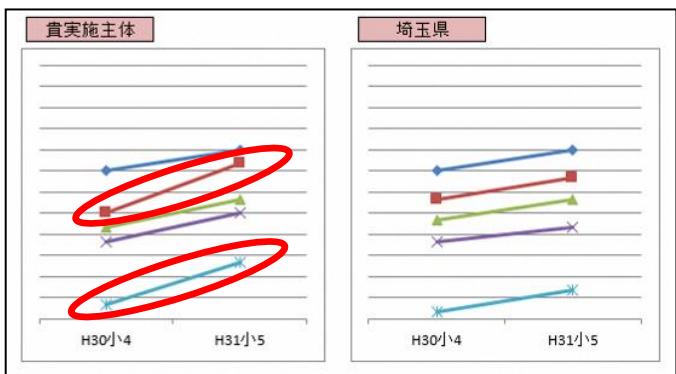
### 小学校 4 年生→小学校 5 年生の取組

#### (1) 学力の伸びから見られる特徴【算数】

##### 今までの学力の変化



##### 学力の伸びの状況



- 小 4 から小 5 にかけて、学力レベルが 6 上昇し、県平均の伸びを大きく上回った。
- 上位層と下位層の「学力の伸び」が県平均を大きく上回った。

#### (2) 伸びを引き出した効果的な取組

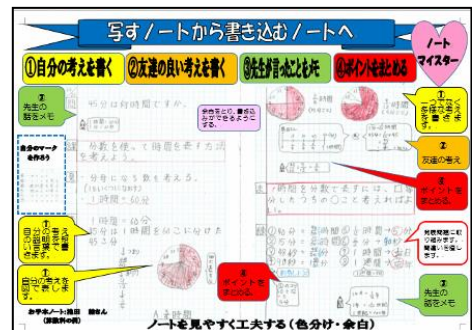
##### ア コバトン問題集・学力向上ワークシートの実施

県が作成したコバトン問題集と東部教育事務所作成の学力向上ワークシートを活用し、様々な問題に触れさせたり、児童一人一人の課題（学力段階）に合った習熟を行ったりした。

対象	学力を伸ばした児童の割合 (%)	
	H30 → R1	
	国語	算数
5 年 県	51.2%	79.3%
本校	69.0%	91.7%
比較	+17.8%	+12.4%

##### イ 「書き込むノート」の実践

書く力の向上のため、全教科を通して児童自らがノートにコメントを入れたり、要点をまとめたりする「書き込むノート」作りを行った。書き写すだけでなく、考えながら書くことを指導した。また、返却されたテストやプリント学習などでも自主的に書き込めるよう指導した。



##### ウ 「こまつな」による振り返り

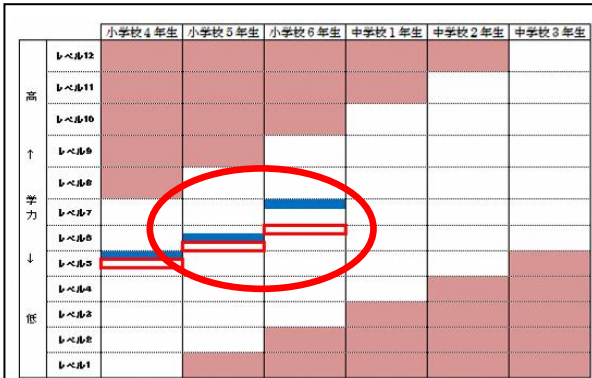
八潮市の特産農作物の「こ・ま・つ・な」を頭文字にした学習の振り返りを行った。児童は振り返ることで学んだことを再認識し、教師は学習の定着状況を把握し、次時の学習に活かした。

ふり返りの視点	
こ	このように考えた
ま	まねきたいな友達の考え
つ	次は何に役立てようかな
な	何ができるようになったか

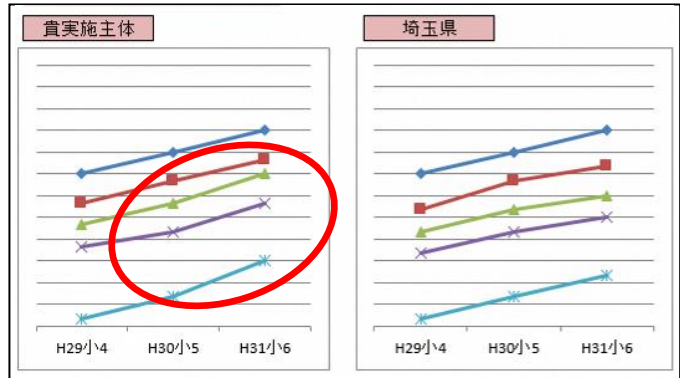
## 小学校5年生→小学校6年生の取組

### (1) 学力の伸びから見られる特徴【算数】

#### 今までの学力の変化



#### 学力の伸びの状況



- 小5から小6にかけて学力レベルが4上昇し、県平均の変化を大きく上回った。
- 上位層・中位層・下位層ともに「学力の伸び」が県平均を大きく上回った。

### (2) 伸びを引き出した効果的な取組

- ア 授業時間における児童が「考える」時間と習熟の時間の確保**  
45分間の中に自力解決の時間、比較検討の時間、問題演習の時間を確実に確保し、常に児童が「考える」授業を展開した。また、習熟の時間も確保した。

対象	学力を伸ばした児童の割合 (%)	
	H30 → R1	
	国語	算数
6年 県	73.5%	70.8%
本校	89.7%	82.8%
比較	+16.2%	+12.0%

**イ コバトン問題集・学力向上ワークシートの実施**

県が作成したコバトン問題集と東部教育事務所作成の学力向上ワークシートを活用し、学習の習熟を行った。

**ウ 「伝えるゲーチョコキパー」の実践**

ハンドサインによる挙手で、自分の考えを表現する「伝えるゲーチョコキパー」を創設し、話し合い活動や練り上げの場面で活用した。「話す」だけではなく、「聞く」「反応する」ことも重要視しながら指導を行った。児童が自分の考えを表現し、活発な意見交換や比較検討から、子供たち同士で主体的に授業が進められた。

伝えるゲーチョコキパーのハンドサインと対話の例。意見を出す、賛成する、反対するの3つのサインがあり、具体的な対話のやり取りが示されている。

### 学校全体での取組

**ア 「大曽根スタンダード」による授業実践**

教師が話す時間を極力減らし、児童が主体となる基本的な学習過程を示した「大曽根スタンダード」を作成した。学習過程を「つかむ・見通す・考える・話し合う・まとめる」段階とした「大曽根スタンダード」を、全学級・全学年で行った。

大曽根スタンダード(学習)の学習過程フロー。つかむ・見通す、考える、探める、まとめるの4つの段階が示されている。

**イ 学習の十カ条の徹底**

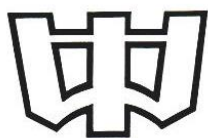
小学校2校、中学校1校からなる中学校区域ブロックで取り組んでいる、「学習の十カ条」を意識して授業を行い、学び方を定着させた。毎月振り返りを行い、花丸や達成した数値を掲示し児童にフィードバックした。

**ウ 「レベルアップタイム」の充実**

朝の15分間・週3回を「レベルアップタイム」とし、児童の基礎基本となる学力及び思考の道具の定着のため、全学級プリント学習(国・算)を行った。教師は、残り5分間に拡大掲示した問題の解説等を行い、学力等の定着を図った。

学習の十カ条のリスト。授業が始まる前に道義を正しく準備しよう、めあてをもって学習しよう、ノートは遅くてもいいに書こう、自分の考えを書こう、時と場にあった声の大きさを話そう、進んで発言しよう、友達の見聞も大事にしよう、「伝えるゲーチョコキパー」を使おう、書く・聞く・話すなどのメリハリをつけよう、大切だと思うところに自分で書きこもう、「ごまつな」を使ってみかえりを書こう。





# 川口市立青木中学校の取組

## 1 本校の概要

本校は、川口市中心部の市街地に位置する開校73年を迎えた伝統校である。全校生徒数736名、学級数22学級の中規模校である。

学校教育目標「智性を磨く・身体を磨く・心を磨く」のもと、明るいあいさつ、思いやりの心、規律ある態度の徹底を目指す「ハートフル青中」の取組を推進している。その結果、生徒は落ち着いた学校生活を送っている。

また「文武両道」を掲げ、学業と部活動どちらもしっかりと取り組んでいる。学業では、「見通しと振り返りのある授業」「道徳の時間を中心とした徳力向上の推進」に取り組んでいる。部活動では、運動部・文化部ともに盛んで、県大会出場の部が多く、関東・全国レベルの活動をしている部活動もある。

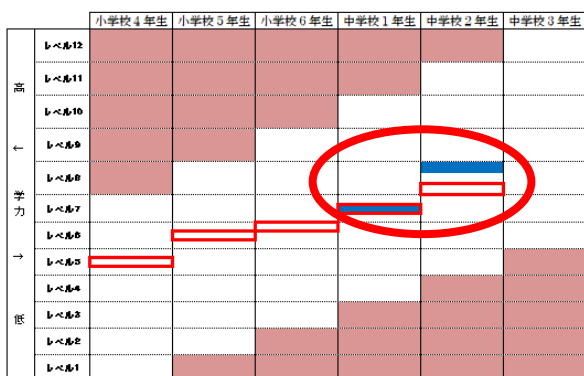


## 2 平成30・31年度の結果

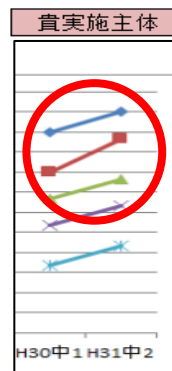
### 中学校1年生→中学校2年生の取組

#### (1) 学力の伸びからみられる特徴【数学】

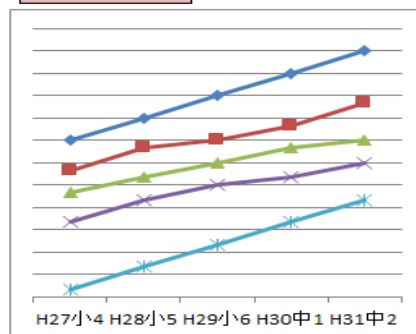
##### 今までの学力の変化



##### 学力の伸びの状況



##### 埼玉県



- 数学の伸びが県の伸びを2段階上回った。
- 全体的にも順調に伸びているが、特に中位層、上位層の伸びが大きい。

#### (2) 「学力の伸び」を引き出した効果的な取組

##### ア 見通しと振り返り

1 単位時間の充実を図った。毎時間の授業では、授業の見通しが持てるように、課題を提示し、この時間で何を学ぶのかを明確にした。また、まとめでは授業の振り返りを行い、生徒の1時間で学んだ学習内容の理解が深まるように授業を組み立てた。

##### イ 「学び合い、教え合う」授業展開

対話的な学びの実現を意識して、授業の中で教え合う時間を設けるようにした。具体的には、課題に対して、個人で考える時間を設けてから、4人のグループ学習を実施した。また、その際の机間指導では、話し合いが活発になるように教師から積極的に声掛け、助言を行った。

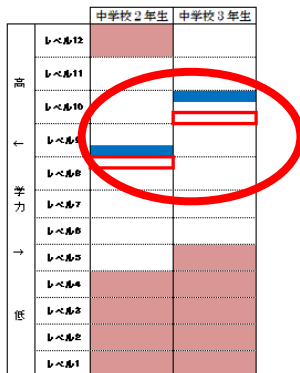
##### ウ 単元ごとに確認プリントの実施

単元ごとに復習の時間をつくり、確認プリントを実施した。生徒のつまづきを早急に把握し、重点的に、また個別に対応した指導をすることで学習内容の定着を図った。

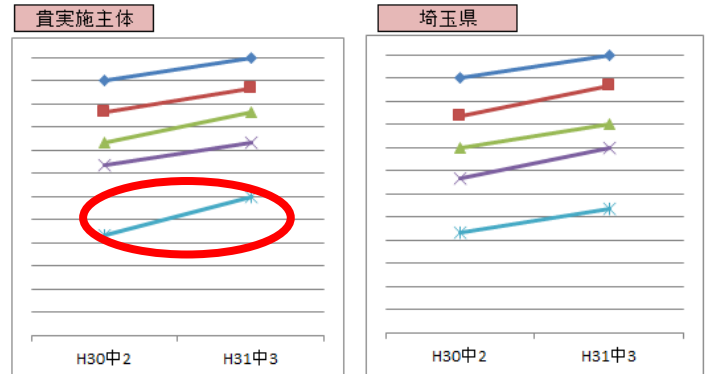
## 中学校2年生→中学校3年生の取組

### (1) 学力の伸びからみられる特徴【英語】

#### 今までの学力の変化



#### 学力の伸びの状況



- もともと中位層の学力レベルが高いが、そこからも順調に学力を伸ばしている。
- 今回は特に下位層の学力の伸びが大きく、県の伸びを上回った。

### (2) 「学力の伸び」を引き出した効果的な取組

#### ア 生徒の自信を引き出す授業づくり

『「学びの場」は間違えても良い』を合言葉に授業を展開し、生徒の自信を引き出したり、学習意欲を高めたりすることを全教職員で心がけた。授業で生徒が発言した際には、どのような内容の発言にもクラス全員で耳を傾けて、自分の考えを表現できるようにしている。発表時には賞賛や、拍手を教師から率先して行い、生徒の模範となるようにした。学び合う環境の醸成を目指して、授業中自分一人だけで考えずに、クラスの中で意見交換する場面を意図的につくり、新たな学びや発見を共有し、褒め合ったり認め合ったりすることで、生徒が自信をもてる授業づくりを行った。

#### イ 帯活動と既習事項の確認

授業の初めなどに帯活動を取り入れた。ルーティン化した学習を繰り返す行くとともに、活動内容を単元の復習等を取り入れ、自信を持って言語活動できるようにした。

#### ウ 基礎的・基本的な知識・技能の定着

単元ごとに小テストや、積み上げを用いた確認テストを実施した。生徒の定着度を随時測り、学習内容の定着が不十分な生徒でも習熟が図れるように、声掛けをしながら繰り返し練習をさせた。帯活動と並行して行うことで、更に確かな文法力の向上を目指した。

## 学校全体での取組

#### ア 学習習慣の確立と学習環境の整備

家庭での学習習慣の確立のための支援として、学級担任と各教科担当で手立てを考え、二者面談や三者面談を通じて、あきらめずに最後まで取り組むように指導している。また、学習規律の確立に力を入れるとともに校内掲示等を整え、生徒が学習しやすい環境を整備している。あわせて、本校では道徳教育に力を入れることで学級経営の基礎とし、生徒同士の人間関係をよくしていくことで、より良い学習環境づくりを推進している。

#### イ 評価の工夫

生徒のよい点や進捗状況の評価を積極的に指導に生かすことにより、一人一人の生徒を伸ばす評価の手立てや工夫の検討を行っている。具体的には、年間指導計画に基づいた評価規準の作成・授業における自己評価・相互評価の導入・定期テストの工夫と実施といった手立てから、生徒の「学びたい」「知りたい」「活かしたい」といった気持ちを醸成し学力の向上につなげるようにしている。

#### ウ 見通しと振り返りのある授業

基礎的・基本的な知識・技能の確実な定着とそれを活用する場を設定するとともに、学習形態の工夫をしている。特に1時間ごとの授業展開の工夫として、具体的な「見通し」と「振り返り」のある授業を行い、その中で相互に学び合う授業づくりや、小グループの活動・話し合い活動の充実などを効果的に取り入れることで生徒たちの主体的な学びを支援している。



# 富士見市立水谷中学校の取組

## 1 本校の概要

本校は、富士見市の南部に位置し、本年度は開校37年を迎える学校である。全校生徒は282人、学級数は10学級の小規模校である。

学校教育目標「自ら学ぶ生徒 心豊かな生徒 健康で明るい生徒」のもと、保護者・地域・学校が一体となり、教育活動に取り組んでいる。

本校の特徴として地域との連携が密であることが挙げられる。地域の防災訓練や非常災害対応訓練において多くの生徒が参加し、地域の一員としての重要な役割を果たしている。また、体育祭や合唱祭、ロードレース大会等の学校行事の際には、保護者や地域の方々に多くのご支援をいただき、充実した教育活動を実践することができている。

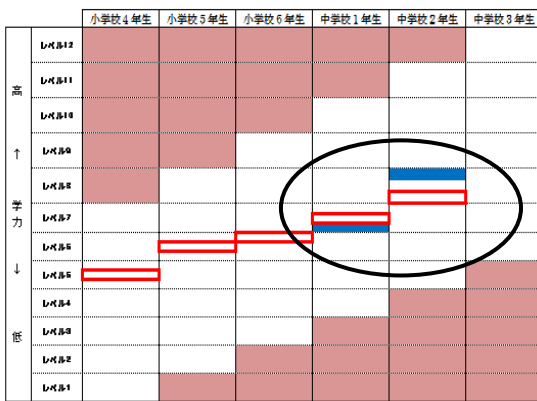


## 2 平成30・31年度の結果

### 中学校1年生→中学校2年生の取組

#### (1) 学力の伸びから見られる特徴【数学】

##### 今までの学力の変化

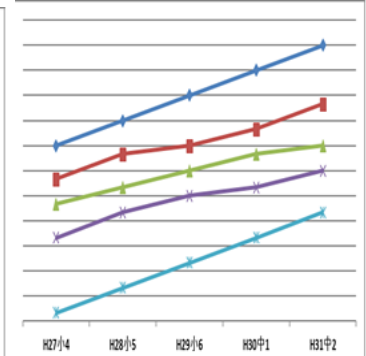


##### 学力の伸びの状況

##### 貴実施主体



##### 埼玉県



- 数学の学力レベルが中1時には県平均を下回っていたが、中2時では県平均を上回った。
- 上位層・中位層・下位層の学力の伸びが大きい。

#### (2) 伸びを引きだした効果的な取組

##### ア 1時間の授業全体を構造的、視覚的に表した板書づくり

授業毎のねらいを明確にするために、学習過程と授業の流れが分かる1時間の板書計画をつくりあげることに取り組んだ。「課題」を意識した「見通し」や「まとめ」を書いたり、重要語句や生徒の意見等を簡潔にまとめたり、黒板の板書配分を工夫することで、学習内容を構造的に捉えられるようになった。また、課題の解決に向けた生徒の考えを色チョーク等で整理することにより、生徒の考えを視覚的にも分かりやすくし、思考の深まりを捉えられるようになった。また、教材・教具を用意し、生徒が操作する場面を取り入れることで、生徒は意欲的に課題に取り組むことができた。



視覚化・構造化された板書

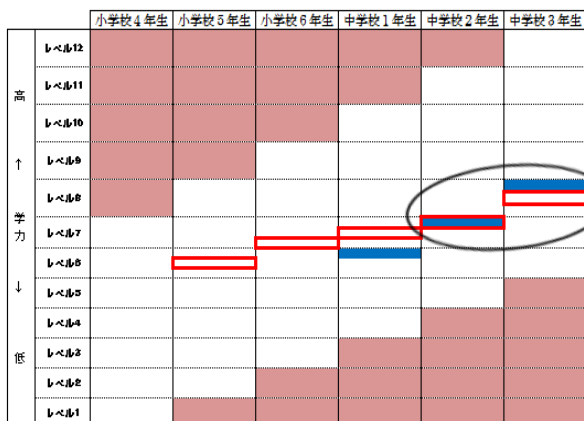
##### イ 学力向上のための集団における個に対する指導

毎時間、既習事項の小プリントから本時の授業内容に繋げている。既習事項を復習させてから授業を進めることで、「学習の継続性」を生徒が認識し、基礎・基本の定着及び学習内容の理解の深まりを目指した。こうすることで、既習事項を整理し、新たな学習内容に対する課題の明確化が可能になった。また、生徒同士が考え方を共有するために、早く解き終わった生徒を「リトルティーチャー」とし、生徒の学び合いの場をつくった。この取組で、応用問題に対しても答えを考え、解き合うことができるようになり、分かる喜び、できる楽しさを味わわせるとともに、数学的な考察、思考ができるようになった。

## 中学校2年生→中学校3年生の取組

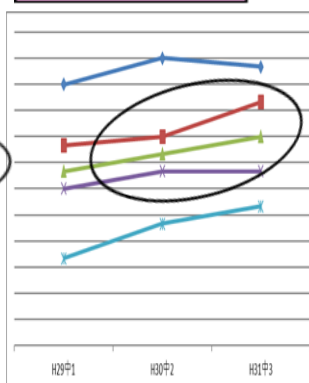
### (1) 学力の伸びから見られる特徴【数学】

#### 今までの学力の変化

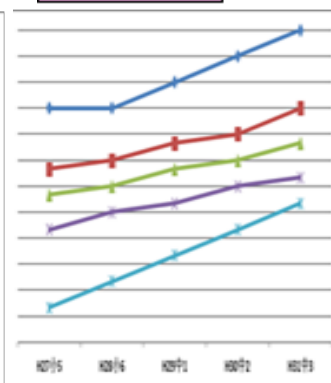


#### 学力の伸びの状況

##### 貴実施主体



##### 埼玉県



- 数学の学力レベルが中2時は県平均と同等であったが、中3時では県の平均を上回った。
- 上位層・中間層の伸びが大きい。

### (2) 伸びを引き出した効果的な取組

#### ア 定期テスト返却後の解き直しレポートづくり

テストの復習がおろそかにならないように、返却後すぐ解き直しをする時間を設定した。教師が解説する時間をなるべく短くし、悩んだ問題や間違えた問題について、何が原因で間違えたのか分析する時間や、解き直しをする時間をできるだけ多く確保した。合わせてレポートにまとめ確実に復習できるようにした。

次回のテストに向けて「いつから」「どのようなペースで」テスト勉強を進めていくのか、学習計画の改善にも取り組むことで、多くの生徒が自ら主体的、計画的に学習する姿勢をつくれるようになり、「自分で納得できるように勉強したい」という意欲がみられるようになった。

#### イ 生徒が関わり合いの中で学び、「数学的な考え」を育てる授業の工夫

普段の授業の中で、教師側の説明を簡潔にし、指示を明確に出すことと、発問の工夫により、生徒自身が考える時間や解く時間、生徒同士が考え方を共有する時間を確保することを意識して授業を組み立てている。また、3人グループによる話し合い活動を取り入れた授業を実施することで、自分の考えを整理し、図や言葉、式などで簡潔に表したものを、相手に分かるように筋道を立てて説明する力を育てている。さらに、相手の説明を自分の考えと比べながら聞き、自分の考えと相手の考えの類似点、相違点を探しながら、それぞれのよさに気づくことができるようにしている。このような活動を通して、自分の考えをもって話し合い、他者を通して考えを深めていく学習過程を積み重ねていく中で、「数学的な考え」が育ってきていると考える。

## 学校全体での取組

#### ア 「問題解決的な学習」の基礎となる「問題」の質の向上

数学の授業では、毎時間に行う既習事項の小プリントから授業内容に繋げることによって、意欲的に学習課題に取り組ませている。学習課題に対してスパイラルに取り組むことで基礎・基本の定着に繋がり、確かな学力を身に付けることを目指している。

#### イ 学習規律の統一を図り、誰もが落ち着いて学習できる授業体制の確立

全教職員が授業前に教室に向かい、チャイムと同時に授業を始めるようにしている。また、全ての教科で誰もが主体的に授業に参加できるよう、小グループでの活動やペア学習、「スモールティーチャー」の活用など積極的に導入、活用している。また、小グループによる話し合い活動を充実させることで、生徒が安心して挙手、発言ができる雰囲気づくりにも取り組んでいる。現在、「温かい学習環境」が整備され、生徒同士が共に高め合える、学力向上に向けた基盤がつけられている。



# 深谷市立幡羅中学校の取組

## 1 本校の概要

本校は、全校生徒577人、学級数は18学級の中規模校である。学校の周りには、旧中山道のイチョウや松並木に沿って西には小学校や高等学校や公園があり、北には新興住宅地、南に国道17号と工場地区、東には住宅地や農業地区がある。そのような比較的落ち着いた環境のもと、本年度で開校73年目を迎える学校である。



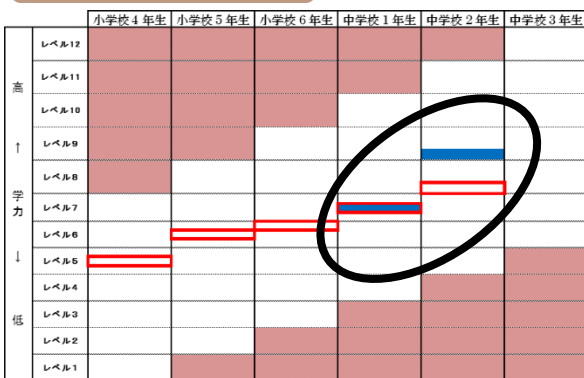
学校教育目標「高く志を抱き、心豊かにたくましく生きる生徒の育成」のもと、全職員が一丸となって教育活動に取り組んでいる。平成29・30年度は深谷市教育委員会の委嘱を受け、「自ら学び、確かな学力の定着を図る指導法の研究」を学校研究課題として、「主体的・対話的で深い学びの実現」に向けた授業改善、「非認知能力・学習方略の向上」に取り組んだ。また、学習だけでなく部活動も盛んであり、県大会・関東大会・全国大会に出場する部活動も多い。

## 2 平成30・31年度の結果

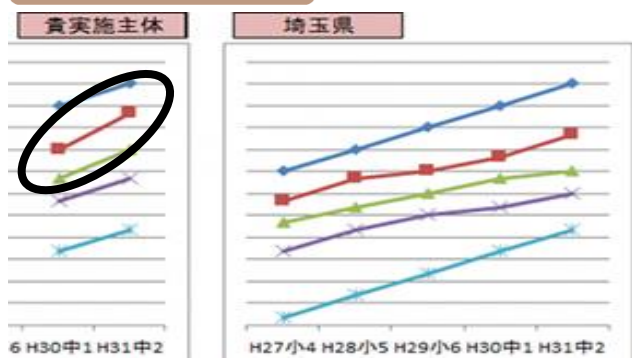
### 中学校1年生→中学校2年生の取組

#### (1) 学力の伸びから見られる特徴【数学】

##### 今までの学力の変化



##### 学力の伸びの状況



- 数学の学力レベルが中1時の県平均から、中2時では、+8ポイントの伸びがあった。
- 上位25%層の学力の伸びが顕著である。

#### (2) 伸びを引き出した効果的な取組

##### ア 基礎基本の定着

毎時間、小単元プリントを使い小テストを行った。前時や本時の内容が理解できているかを確認し、個別の指導に生かした。小テストで合格点に届かない生徒は合格するまで取り組ませ、理解が不十分な生徒には放課後に補習を行い、「できるまで、わかるまで」指導を行っている。



##### イ TT (ティームティーチング) 授業の機能化

本校では毎年1年生においてTTの形態で授業を行っている。授業ごとに、補助が必要な生徒や授業展開についての打合せや協議を行い、T1、T2の役割分担を明確にして取り組んでいる。また、単元により、T1、T2教員が交代して授業を行うなど、それぞれの教員の持ち味を生かすとともに、生徒が新鮮な気持ちで学ぶことができるように工夫している。

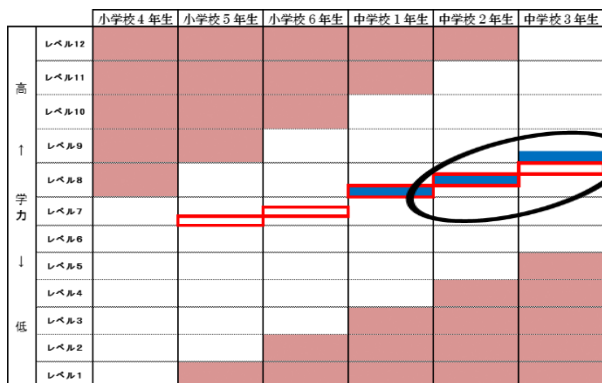
##### ウ 学習形態「個人」と「グループ」の取り入れの工夫

自力解決の時間や自分の考えや解決法をグループ内で説明する時間の確保を行っている。自分の考えや解決法を説明するだけでなく、他者の考えや解決法を聞き理解し、自分で説明してみる活動を通して、より理解を深めることができている。

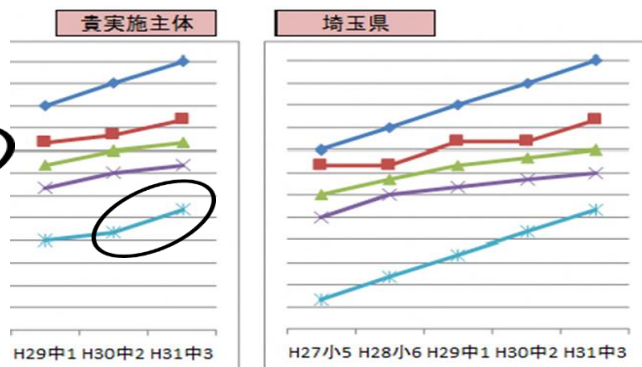
## 中学校2年生→中学校3年生の取組

### (1) 学力の伸びから見られる特徴【国語】

#### 今までの学力の変化



#### 学力の伸びの状況



- 国語の学力レベルが、中2時は県平均であったが、中3時は県平均を上回った。
- 下位層の伸びが大きい。

### (2) 伸びを引き出した効果的な取組

#### ア 自分の考えや感想を書き記す時間の確保

文学的文章や説明的文章の学習時に、自分の考えや感想を書く作業を取り入れた。クラスの中で上手な生徒数名の文章を見本として印刷して配り、全員でその文章を読んで参考にした。



#### イ 授業時の漢字小テストに向けた語句ノート課題の提出

授業の最初に漢字小テストを行っている。それに向けて語句ノートに新出語句を書かせ覚えさせている。語句ノートは毎月1回提出させ、評価することを徹底してきた。今ではほとんどの生徒が提出でき、新出語句を覚えることに対する抵抗感がなくなってきた。

## 学校全体での取組

#### ア 深谷市授業スタンダードの実践

単元のゴールを設定し、それに向けた逆向き設計型の指導計画を立てている。それを基に毎授業の授業デザインを考え、単元に対する見通しを持って指導にあたっている。また、授業においては、最初に「目標（ねらい）」を示し、授業への見通しを持たせた。最後には生徒と教師による「まとめ」を行い、そこから生徒自身による「振り返り」を行わせている。

#### イ 深谷の子「6つの誓い」の実践

非認知能力や学習方略の高まりにより、学力が向上するということがわかっている。そこで、深谷の子「6つの誓い」の「あいさつをすすんでおこなう」「くつのかかとそろえ」に特に力を入れ、「全校あいさつ運動」や「くつのかかとそろえプロジェクト」を全校で取り組んでいる。本校の県学調の非認知能力や学習方略に関する設問の結果からは、県平均を大幅に上回っている値が見られ、その能力の高まりが学力向上につながっていると考えられる。



#### ウ ステップアップレッスンやコバトン問題集・復習シートの活用

学力低位層の生徒を主な対象として、週2回、放課後にステップアップレッスンを計画して学習補充を行っている。コバトン問題集や復習シートは全生徒が自主的に活用できるよう、校内の学習コーナーから各自が持ち帰れるようになっている。また、類似問題を定期テストに活用するなどして、今求められている資質・能力の育成に努めている。



# 越谷市立南中学校の取組

## 1 本校の概要

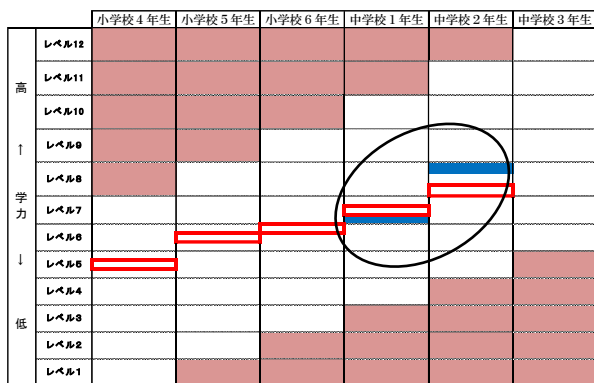
本校は越谷市の南部に位置し、全校生徒 573 人、学級数は 21 学級の中規模校である。学校教育目標「豊かな人間性を持ち、自立して生きる生徒の育成」に職員全員が一丸となって教育活動に取り組んでいる。小中一貫教育にも力を入れ、「自ら課題を求め、目標に向かって進んで努力する児童生徒」の育成に努めている。

## 2 平成30・31年度の結果

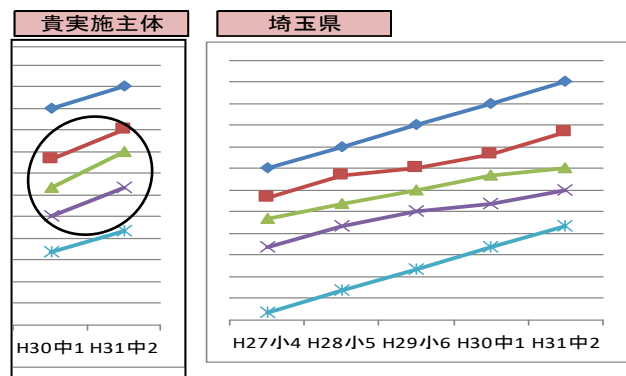
### 中学校1年生→中学校2年生の取組

#### (1) 学力の伸びから見られる特徴【数学】

##### 今までの学力の変化



##### 学力の伸びの状況



- 学力の伸びが県平均を上回り、県平均を下回っていた学力レベルが県平均を上回った。
- 上位層・中位層・下位層の学力の伸びが大きい。特に中位層の伸びが大きい。

#### (2) 伸びを引き出した効果的な取組

##### ア 個に応じたきめ細かい指導

新しい単元に入る前にレディネステストを実施し、生徒の希望を確認した上で習熟度別少人数指導を実施した。該当単元を苦手と感じている生徒のクラスをできるだけ少ない人数になるように配慮した。また、定期テストの前や本校数学科の取組である全学年対象の「計算力コンテスト」において、合格点に満たない生徒を昼休みや放課後に集めて補習を行い、基礎・基本の定着を徹底させた。補習には複数の教員で対応し、個別指導を行い、分かるまで、できるまで指導した。

##### イ 主体的・対話的で深い学びを意識した授業

自分の考えを発表する機会を多く設け、生徒が全体の前で自分の考えた解き方を発表する活動を行った。工夫した考え方やいくつか考え方が出てきた場合にも積極的に取り上げ、様々な考え方を共有し合うことで理解をより深めることができた。

##### ウ 自力解決の時間の確保と教え合いの授業

自分の考えをもつ時間をじっくり確保するとともに、生徒が互いに解き方を教え合う学習を取り入れた。特に、理解の遅い生徒に対して、問題を解き終えた生徒を中心にミニティーチャーとなり、答えをただ教えるのではなく、考えるヒントを出しながら自分の力で答えを導き出せるようにした。



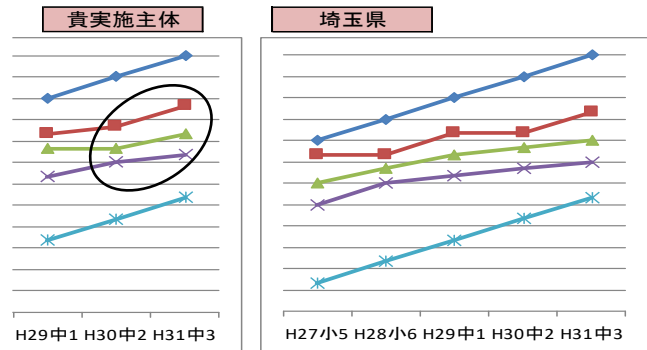
## 中学校2年生→中学校3年生の取組

### (1) 学力の伸びから見られる特徴【国語】

#### 今までの学力の変化

	小学校4年生	小学校5年生	小学校6年生	中学校1年生	中学校2年生	中学校3年生
高	レベル12					
	レベル11					
	レベル10					
↑	レベル9					
	レベル8					
	レベル7					
↓	レベル6					
	レベル5					
	レベル4					
低	レベル3					
	レベル2					
	レベル1					

#### 学力の伸びの状況



- 学力の伸びが県平均を上回っている。
- 上位層・中位層・下位層の学力の伸びが大きい。

### (2) 伸びを引き出した効果的な取組

#### ア 「語彙力の充実」を意図した指導

- ① 毎時間辞書を活用する場面を設定している。教材に即した言葉・タイムリーな話題に関連した言葉・二十四節気言葉などを中心に上げ、早引きゲームの要領で辞書を活用している。調べた言葉にはマーカーを引いたり付箋をつけたりして、学習の積み重ねが見えるようにしている。
- ② 中学1年生時から単元ごとのまとめとして、根拠を明らかにした意見文や物語のその後を創作した作文などの表現活動を高校入試課題作文の原稿用紙で行っている。
- ③ 各教室の黒板の月名は旧暦で書く習慣をつけている。

#### イ 少人数による「話し合い活動」の実践

- ① 4人班で単元ごとに話し合い活動を実施している。その際、「司会・ボードに書く人（発表用のホワイトボード）・発表者・質問に答える人」の四つの役割を輪番で回し、話し合いの場面で必ず自分の役割分担を持たせている。
- ② 話し合いの約束事として「話し手の意見を聞きながら聴く・発表している意見を否定しない」という姿勢を徹底させている。

#### ウ 「書く・話す」の徹底

- ① 授業中の発表の際、最後まで「自分の言葉で言い切る」という当たり前のことを徹底している。
- ② 定期テスト後、観点別（聞くこと・書くこと・読むこと・言語事項）にテストの振り返りを文章で書かせている。どこで間違えてしまったのか、それを回避するにはどうしたらよかったのか、これからどのような学習の取組をしていけば良いのか等を自分の言葉で書かせている。

## 学校全体での取組

#### ア 生活規律・学習規律の徹底

質問紙調査「規律ある態度」より、『学習のきまりを守る』『生活のきまりを守る』についての質問において、2年生と3年生は4項目全ての質問において「できる」と答えた生徒の割合が県平均を上回っている。徳育に力を入れ、落ち着いて生活することや落ち着いて授業をすることを全職員が共通理解し取り組んでいる結果であると考えられる。

#### イ 学習環境の定着

全教科において、授業の「ねらい」を明確化し「振り返り」を実施している。家庭学習においては、学習のポイントを教科担当が学年黒板に記入し、担任が毎日家庭学習の状況を点検している。さらに長期休業日やテスト前など教科別で補習を行い、継続してアドバイスをしている。